

平成28年度 第2回 横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成28年9月6日(火) 13時30分～15時00分
- 2 場 所 横浜みなとみらいホール レセプションルーム
- 3 出席者 丸山 宏 委員長、石田 一志 委員、田中 操 委員、中村 晃也 委員、
宮本 とも子 委員
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 1名

6 議事内容

議題	<p>議題1 開会 議題2 指定管理者平成27年度評価について</p>
委員意見等	<p>議題1 開会</p> <p>(1) 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足し、会議の成立を確認した。</p> <p>(2) 本委員会の公開・非公開について (審議結果) 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱 第9条に基づき、公開とした。</p> <p>議題2 指定管理者平成27年度評価について (以下「・」＝委員、「→」＝指定管理者、「→(市)」＝横浜市)</p> <p>委員からの評価に先立ち、指定管理者より、事業報告書内容の訂正箇所について、説明を行った。</p> <p>〈質疑〉 「1 経営」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜市の企画であるダンスフェスティバルは継続するものなのか。 →(市) 28年度は音楽、来年は美術、再来年はダンスと、3年周期で回していく。 ・バレエとヴァイオリンの組み合わせが世界でも注目されている。ダンスと継続的に連携するなど、独自性を発揮してもよいのではないか。 ・最寄駅からのアクセスで見かけるポスターは並べるだけでは総花的なので、メインとなる主催事業を別扱いとし、伝える工夫があるとよい。 ・27年度、初めてダンスと音楽のコラボレーションを見て、大変おもしろい取組と感じた。周囲からも同様の反応があり、継続して実施できるとよい。 ・企業協賛金が減少しているが、原因は何か。市内企業に対して、どのようなアピールをしているのか。 →協賛をいただくため企画書を作り、組織一体となって関わっている。一方、協賛金の減少に対しては、これまで以上にきちんとした事業プログラムを考えなくてはならない。また、毎年の市の文化事業と市施設からの依頼が重複し、協

- 賛に結びつかない苦しさもある。現状は、東京の企業からの協賛が多い。
- ・横浜にプライドを持っている企業があるので、企業の心理を刺激するようなアピールの仕方があるのではないか。
 - ・27年度、色々な意味でメスを入れた印象を持ち、高く評価した。
 - ・文化事業は、行政予算を種金にし、さらにすごいことをやろうという意欲があるべき。文化の発信、横浜の政策の原点にプライドを付与する仕組みができる職場である。商品になり得る企画なくしてファンレイジングは成立しない。万が一お金で見返りがなくても、企業のブランド形成ができるという企画を手がけてほしい。開館20周年や大規模改修も想定される時期に、一気にMMブランドを形成してほしい。
 - ・クラシック音楽の分野に人が一番集まっていることは、MMホールの使命の一つではないか。総合力の結果とこれからの期待値をもって高く評価した。
 - ・「ホールのある街」戦略は方向性としてよい。財産・資産がある立地でもあり、位置づけのできる施設であるため、チラシ・ポスターの統一感をうまく結びつけると良いのではないか。
 - ・外部評価は「A」とする。

「2 事業」について

- ・海外オーケストラ公演が国際発信につながるかは疑問。世界に通用する新しい音楽を、海外の代表的なオーケストラや団体によって行うことは意味がある。予算を独自企画に集中的に回す等、大々的に事業発想をしてほしい。
- ・MMホールでこそ、遊音地で楽しめるような内容を純度高く、本質的に耳を養い、音楽文化全般に対して感受性を高める機会として活用できるのではないか。子どもや家族向けの企画、子ども達の養成等、地元還元でき、他では継続的にはできない事業について、ホールの名前とともに徹底的に打ち出すことが必要。子どもたちが喜ぶ、大人たちが子どもたちのために喜ぶ状況を作り出してほしい。
- ・入場者数が少なく、このホールにはもったいない事業と見受けられた点もあった。その点を分析し、皆さんが本当に楽しめるホールになることを期待する。
- ・民間の事例で50年続いている、子どもとオーケストラの事業がある。1人の子どもに対して、2人の親、それぞれの祖父母が観客となり、お金を出し、2,000人のホールが満員になる。そのような聴衆づくりがMMホールでもあるべき。行政が長期に事業を維持して続けることは、その地域に一つの名物を根づかせる非常に重要なことだ。
- ・団員の月謝だけを資金に、一流のジュニアオーケストラを作っている事例もある。長期的な展望で質の高いものをやろうとすれば成果が上がると考えられ、現在、実施している少年少女ジャズオーケストラの芽を育ててほしい。
- ・ホールへの助成の際、評価が低いのは、個性がないのが要因。横浜がユニークなことで少しでも前に進むと、突出する可能性が高い。集中力の高い事業を1つ、2つ持っている外部資金を獲得できる。
- ・40代までの年齢層が9割を超えた公演があったが、横浜市外の来訪がほとんどだった。30代、20代の聴衆を呼び込めるホールであることを打ち出し、事業を発展させてほしい。
- ・みなとみらい線で、次回企画を目に見えるように案内できると、若い世代に理解される。28年度のチラシはすばらしく、期待感を高めている。
- ・アウトリーチは学校訪問だけでなく、MMホール周辺の空間で積極的に何かを行い、商業地区全体の質を上げていく。ここはMMホールと美術館があるが、文化

度の高い空気の醸し出しがまだ弱い。インスタレーションを使ってダンスの一部を外で実施する等、工夫することこそ、アウトリーチではないか。

- ・各委員は共通して「選択と集中」を指摘している。総花的ではなく、集中すべきところに集中するといったような姿勢が要求されている。
- ・横浜市の文化政策が問題ではないか。箱物をつくった時に、詰め物への精査の形跡が見られない。ロケーションも良く、聴衆も近隣に多く、外から人を呼ぶ必要がないというホールは世界中でも希有。地政学的な利点も考慮し、MMホールをシティセールスの核として横浜市が特区のように政策の一部にする等、市がエールをホールに送り続けるべきだ。
- ・外部評価は「B」とする。

「3 施設の運営」から「7 留意事項」について

- ・小ホール公演の帰りが混み合い、階段で降りることが多い。観客は御年配の方が多く、適切な避難計画やバリアフリーという観点から、安全に降りられるように考えてほしい。
- ・近隣企業の顧客コンサートが目標2件に対して4件と成果を出した。事業者と定期的に密接な友好関係を持ち、今後継続できる工夫を続けるとよい。
- ・外部の適切な人材を招くほか、長期展望を持って内部で専門人材養成を行うと力強いものになる。教育を受ける一方で、流れを作っていくよう発想力も作り出す養成方法・理念を持ってほしい。
- ・レセプションルームの利用方法の詳細をホームページに載せれば、利用者が増えるのではないか。
- ・大ホールの床が27年度に研磨するまで傷んでいたが、音響が変わるものか。
→研磨して悪くなる可能性もあるため、慎重な対応が必要。
- ・内部で人材を育てることも大切だが、外部の専門人材を入れて、新しい改革に取り組んでほしい。
→専門職制度は2年前から財団全体で行っている。外部人材は、現在の事業を見る視点と、若手育成を必須条件として、依頼している。財団総務が中心となって専門職制度再度精査している。
- ・利用料金収入が前年より850万円落ち込んでいる。頑張ってもらいたい。
→財団本部で非常に重要な問題と捉えている。事業で利用しない空き部分を貸し館で利用料収入を上げていかななくてはならない。
- ・MMホールへの利用要望は強い。妙な自主事業でホールを使うよりは空間を売ったほうがよく、スクラップ・アンド・ビルドをお願いしたい。
- ・レセプションはいつも丁寧な対応で感動する。日本語だけの対応で現状、問題はないか。
→英語対応ができるレセプションが多い。現状、お客様はほとんどが日本の方である。
- ・これから海外のお客様が増えなければ困るような状況だ。バイリンガルは英語対応だけでなく、困ったときのFAQを様々な言語で書いてあるような場所があるだけでウェルカムメッセージになる。
- ・オルガンメンテナンスが最高の状況で保たれている点について極めて高く評価した。
- ・駐車場・搬入口過失事故がゼロという点は、当然のことではあるが、評価されるべきであり、高く評価した。
- ・財団が全力で色々と実施していることを含め、組織内のコミュニケーションが円

	<p>滑かつダイナミックにいい方向に動いている印象を受け、高く評価した。</p> <ul style="list-style-type: none">・「3 施設運営」について、外部評価はBとする。・「4 施設維持管理」について、外部評価はBとする。・「5 その他の業務」について、外部評価はBとする。・「6 組織に関する業務の基準」について、外部評価はBとする。・「7 留意事項」について、外部評価はBとする。 <p>「基本方針（総括）の評価」について</p> <ul style="list-style-type: none">・目標4項目のバランスが難しい。「音楽文化の世界への発信」、「世界で評価を受けるコンサートホール」は、事業として目指すとなると限られた予算では難しい。市民連携・地域連携を独自企画として伸ばしていくことで、世界に対しても、「日本国内で著名な横浜市のMMホール」と誰もが思うような個性が芽生えるのではないかと。今回、市民連携・地域連携は、一定の評価目標以上のよい内容が出ており、横浜市民全体が誇れるようなホールのあり方に向かってほしい。・第2期に差しかかり、ホールがどこに向かっているか打ち出す時期がきている。・チケットの予約システムが順調など、色々なことが上向きに動いている。今後の活躍に期待をしたい。・市内で日本国籍ではない方が増えたり、企業誘致もある。市内の日本人以外のコミュニティに対しても広げられるとよい。・「基本方針」について、外部評価は「B」とする。
--	---